

学校名：西宮市立神原小学校
氏名：清 献一郎

1 海外研修について

- (1) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)
- H I M M A T A (スラム街で活動している現地NGOプロジェクト現場)訪問**
最貧層の人々の輝く目に感銘を受けた
- ゲシアン村でのホームビジット**
インドネシア人の素の生活を垣間見られた。人々の温かさに触れることができた。
- J I C A インドネシア事務所所員の方々との意見交換会**
現地に住む日本人の目から見た生のインドネシアが聞けた。インドネシアの習慣や生活の様子を知れた。
- (2) 収集した資料/教材について
- ・サロン(腰に巻く布)、音楽(CD)、子供向けイスラム教の教本、パティック(ろうけつ染め)、ノート、菓子
- (3) 授業/学校生活への活用について
- 上記のものを使って行う。
- (4) 研修に関する全般的な所感/意見について
- ・教材集めのための時間が多めに設定されていたのが良かった。
 - ・朝早くから遅くまでの研修行程に体調を崩した方も多く、全員が全行程に参加できなかったのが残念。どのプログラムも良いものであったゆえにもったいなく感じた。

2 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

- (1) 事前研修
- ・もう少し事前に訪問先の詳細が分かっていると安心。
- (2) 海外研修について
- ・スケジュールが過密で、体力的に厳しい。
- (3) 今後の本研修参加者へのアドバイス
- ・楽しい研修は、メンバーの意気込み次第なので、何事にも積極的に挑戦してほしい。
 - ・疲労は思ってもいないような体調不良を引き起こす。疲れを残さないような工夫をするべき。
 - ・荷物の重量オーバーに注意する。色々持って行こうと思うと、超過手荷物が必要になる。洋服は現地調達することもできる。

3 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか? / その他所感
7月31日	J I C A インドネシア事務所	インドネシア人の誇りや象徴を聞けた。 自尊感情
	インドネシア大学 日本研究センター	インドネシアの大学生からインドネシアの進学状況や高等教育について聞けた。 貧富の差

学校名 : 川西市立陽明小学校 担当教科 : 音楽 氏名 : 野添 洋子		発見したこと・学んだこと それを何につなげるか? / その他所感
8月1日	エトナ・カニ・シマ	<p>フカンスはすごい。 世界でも素晴らしい自然が残されていて、たくさんの種類の生物が生息していることは、世界に誇れる宝物。</p>
	ストリートチルドレン更正施設	<p>働くことと生活設計のできる生活に切り替えることを味わわせ自立することの喜び 物を作って売れることで喜びを味わえるし、それを購入することでその人たちを支援することができる。そこから自分たちでもできることを学んで欲しい。</p>
8月2日	インドネシア語教室	<p>インドネシア語を学んで楽しかった。 新しい言語の習得は異文化コミュニケーションの第一歩</p>
	ホームステイ	<p>アンナさん宅はおじいちゃんが日本に行ったことがあり好意的だった。寮みたいな個室でトイレトペーパーが個別包装で置かれており、バラ売りが当たり前なようだった。 物の豊富な日本に住んでいるということを児童に味わわせたい。</p>
8月3日	文化体験教室「バティック(ろうけつ染め)」	<p>バティック製作を体験した。ろうで模様を描くことの難しさを感じた。 国の伝統文化の継承は大切なことだと児童に伝えたい。</p>
	市場見学・書店	<p>色々なものがあって楽しかった。バティックが店の1階の全てを占めているのに驚いた。バティックが国民の衣装としてしっかりと定着していることが素晴らしかった。</p>
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	<p>素直で明るい子供たちだった。女の子が体育で民族舞踊を習っているのは、日本と同じだった。日本の文化も随分とテレビの影響で知っていた。日本の文化が浸透していることに驚きを感じた。 日本の文化に誇りを持って欲しい。</p>
	ホームビジット	<p>日本と比較すると60年前に逆戻りのような生活ではあるが、そこで暮らす人々の笑顔に人間の生活のあり方を学ばされた。 物質的な豊かさとは真の豊かさとは比例していないことを伝えたい。</p>
8月5日	ワテス国立第1中学校	<p>教師の質が問題だった。日本と同じようになればもっと向上するとは思いますが、意識改革は困難である。国家プロジェクトで改革が行われていくと変化するのかもしれない。</p>
	スポーツ青年局	<p>家族と離れ、一生懸命頑張っている子供たちにひたむきさ、自分を信じ頑張るという情熱を感じた。 自分の信じる道を貫く強さを学んで欲しい。</p>
8月6日	ポロブドゥール遺跡、プランバナン遺跡	<p>世界遺産である二つの宗教建築物を見て、それぞれの違いを感じることができた。そして、2つの宗教が対立をせず共存しているところに素晴らしさを感じた。 文化財を大切に、守り続けていくことを感じて欲しい。</p>
8月7日	HIMMATAの学校・寮	<p>想像を絶する環境で暮らす人々に驚きを感じた。しかし、子供たちの明るい笑顔に自分の幸せの定義を揺さぶられた。 人間の幸福とは何か、考えるきっかけとしてほしい。</p>

1 海外研修について

(5) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)

現地の子どもたちと触れ合えた

個人旅行では、行けなかったであろう貴重な体験ができた。

インドネシアの生の文化を味わえた

バティック工場で行程を見学でき、安価でバティックを購入できた。

ホームステイやホームビジットを体験

家庭内に入り、生活環境・習慣や食生活を体験できた。

(6) 収集した資料/教材について

民族楽器、バティック、インドネシアの昆虫・植物の標本キーホルダー、楽譜、本、音楽、民族楽器の図表、ジルバブ(イスラム教の女性が頭に被る布)、菓子、ストリートチルドレンの作品(写真立て)

(7) 授業/学校生活への活用について

- ・ アンクルンやインドネシアの打楽器を使用して、音の違いや演奏法の違いを実感させる。
- ・ インドネシアの「数字譜」を購入した。「楽譜」で実感させる。
- ・ 民族音楽の音楽DVDを鑑賞させ、インドネシア音楽に親しみ、演奏法を身につける。
- ・ 「民族楽器の絵や楽器の表」は、日本の「雅楽」との比較対象にもなる。
- ・ 昆虫のキーホルダーを見ることで、インドネシアの生き物に触れ、日本の昆虫と比較する。
- ・ 「ジルバブ」をかぶり、「バティック」を着てインドネシアをより身近に感じる体験をする。
- ・ 「日本のお菓子」と比較したり、「ハラルマーク」を探したりできる。
- ・ 再生紙でできた、ストリートチルドレンの作った写真立てを、実際に手に取り触れる。
- ・ 影絵(ワヤン)の人形を手にとり、こんなに細かい作業が施されていることを実感できる。

(8) 研修に関する全般的な所感/意見について

- ・ ワテス国立第一中学校の音楽の先生に会え、色々な話ができて良かったが、時間に縛られていて十分な質問ができず残念だった。
- ・ 訪問先の計画や細かい時間配分が、事前にメンバー全員伝わると、もっと充実した研修になったと思う。
- ・ 内容の濃い研修になったが、反省や振り返りの時間が夜遅くになり、体調を崩した方がいた。
- ・ 移動の車の中で共通理解をして、食事の時に交流するなどの時間の有効利用が必要。

4 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

(4) 事前研修

- ・ それぞれの内容は良かったが、せめて出発前に3回は集まりたかった。
- ・ 文化交流やインドネシアに持参する土産や物品について、参加者内での共通理解が不足していた。

(5) 海外研修について

- ・ 行程も今回のメンバーの要請を程良く受け止めていただき満足している。
- ・ メンバーの体調管理や食事の面でもインドネシア料理の苦手な人向けへの気配り、体調不良の人にも薬や粉末のポカリスエット等、暖かい言葉掛けや心配りに感心した。
- ・ ホテルの食事は、値段は張ったが、美味しかった。元気でいられた。

- ・ 部屋も思っていたよりも良く、ジョグジャカルタなど安心して、滞在できた。
- ・ もう少し、自由な時間やゆったりできる時間があっても良かった。
- ・ 何よりも、個人旅行では訪問できない所を視察、見学できたことに感謝している。
- ・ インドネシアの民族の多さ、宗教の大切さ、貧富の差、心の豊かさ、笑顔の美しさ等を実感した。
- ・ 相手を受け入れ、理解しようと努めることのすばらしさを体験できた。

(6) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・ ホームステイでは、語学のできる人と苦手な人がペアになると良い。
- ・ 指さし会話帳だけではなく、電子辞書があれば、英語でもっと交流できたと思う。
- ・ 「さくら(独唱)」「ふるさと」など、日本の伝統的な歌を歌うと喜ばれる。
- ・ 体調管理のために、自分の疲れを取るグッズを持参すれば良かった。
- ・ 健康サンダルや、自分に合った薬や体温計も持参しておくとう便利だと思う。
- ・ 洋服を購入する時間がないと思い、多めに持参したがホテルで手洗いやクリーニングにも出せた。また、パティックを買って着ることもできるので最小限にとどめても良かった。
- ・ 写真はみんなで共有できた。
- ・ ビデオ係は、2人居た方が何かと良いと思う。

5 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
7月31日	JICAインドネシア事務所	「インドネシア人の誇り」がきけた。 「多種多様な人種・文化の中で共生している」 「認め合っている」 日本人の「誇り」ときかれてどう答えられるか？ 子どもたちに投げかけてみようと思う。
	インドネシア大学 日本研究センター	インドネシアの学生の人気の職業は(高給のため)「エンジニア」 「医者」「弁護士」 「いじめ」を理由に命を絶つことは無い。 インドネシアの学生は、日本の「いじめを苦しめた自殺」や「不特定多数の殺人」の多さに驚く。「いじめ」の理由や「殺人」の理由を児童に考えさせてみようと思う。
8月1日	生物学研究センター	インドネシアには珍しい動植物が存在する。 厳重な管理の下で保管され、研究されている。 日本からの援助規模の大きさを知った。 動植物標本のキーホルダーを実際に児童に見せて、感じることを発表しあう。 その特徴を述べ、日本の動植物との違いに気付く。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月1日	ストリートチルドレン 更正施設	ストリートチルドレンになった理由に驚いた。 貧しいだけでなく、目標になるリーダー的な存在への憧れがあると聞き、納得した。 支援しても、元の生活に戻ろうとする子どもたちが多いのも事実のようだ。 日本の子どもならどうかと児童に考えさせる。 日本なら「生活保護」支援あり。 手作りの再生紙を売り生活している子どもへの思いを児童に聞く。
	JICA関係者との 意見交換会	日本からみた「インドネシア」を聞くことができた。 日本は技術が有るが資源がない。 インドネシアは資源があるが、技術が乏しい。 多文化共生のためには今後どうしていけばいいか？
8月2日	インドネシア語教室	「インドネシア語」の必要性を実感した。 初心に戻って「語学」を学ぶが、なかなか頭に入らない。 やはり、若い間に学んだ方が早いと実感。
	ホームステイ	言葉が通じなくても、音楽は全国共通語だと確信した。 「言葉が話さないで音楽で話し合ってみよう。」を授業で児童に伝えたいと思う。
8月3日	文化体験教室 「ガムラン音楽」	ガムランの楽譜は全て「数字譜」であり、 「ド=1、レ=2、ミ=3、ファ=4」と表記されている。 音の長さも、記譜法は無く、音を聴いて覚える(それらしく弾く)ようだ。全て、暗譜して口伝で教え込む。 西洋音楽は必ず楽譜に忠実に演奏される。
	市場見学・書店	西洋の楽譜とアジアの楽譜の違い 音楽の教科書「1・2・3」 「ドレミ」との違いを発見させる。 バイオリン・ドラムズ・歌の楽譜は五線紙で表現されていた。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	子どもたちは、元気に集まってきた。 元気なパワーに圧倒させられた。 嬉しいときの表現方法を子どもに聞いて発表させる。
	ホームビジット	明るく陽気な人柄に、言葉が通じなくても心が洗われた。 言葉が通じなくても、リズムや遊びはできると実感。
	サイエンスカフェ	キラキラさせた瞳で取り組んでいた。 「日本の子どもたちの目を輝かせるときは、どんな時でしょう？」と児童に尋ねてみて発表させる。
	JICAボランティア との意見交換会	2年間という貴重な時間を青年海外協力隊・シニア海外ボランティアとして、従事することの意義を聴けた。 家族や職場を一時、中断してまでも価値を見いだして国際協力に従事する姿に感動した。 童に「2年間、何かに打ち込めるモノを探してみよう。」と尋ねるとどんな意見が返ってくるか？

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月5日	ワテス国立第1中学校	<p>現地の教育現場を訪問し、授業参観や教員との交流を通して、インドネシアの教育システムを理解できた。</p> <p>授業数や時間帯に日本と差があった。特に「音楽の授業や学校の取り組み」を聴き、「インドネシアの音楽を継承していこう」という姿勢が伺えた。</p> <p>日本の伝統文化を担うための音楽クラブがあっても良いのではないかと感じた。</p> <p>日本の「雅楽」を子どもたちが演奏してみたいと感じるかどうかが日本の子どもたちに聞いてみたい。</p>
	スポーツ青年局	<p>自宅を離れて、バレーボールに夢を抱いて頑張っている女子生徒の姿に感銘を受けた。また、そこでボランティア活動をする指導者の意見を聞き、難しさを感じた。</p> <p>日本の子どもたちは、家庭を離れて、共同生活をしながら自分の夢に向かって努力していけるだろうか？</p> <p>自分の将来を実現するためにそこまで徹底できたら凄い。</p>
8月6日	ボロブドゥール遺跡、プランバナナ遺跡	<p>曇り空で日の出が見られなかったが、すがすがしい空気と遺跡の雄大さに心が洗われた。</p> <p>日本にも世界遺産がある。</p> <p>「なぜ世界遺産になったか？」も調べ、日本だけでなく世界に視野を広げて興味関心を持たせたい。</p>
8月7日	JICAインドネシア事務所	<p>まとめることで、頭の中がすっきりした。</p> <p>グループに分かれ、発表することで、違った観点が見え、違った考え方が発見できて良かった。</p> <p>子どもたちに発表するときも色々な意見・感じ方があることを把握した上で授業を進めることの大切さを忘れてはならない。</p>
	HIMMATAの学校・寮	<p>想像を絶する環境で生活をする暮らしぶりに唖然とした。</p> <p>そこで、勉強する子どもたちのとびっきりの笑顔に感動した。</p> <p>手作りの作品で収入を得て、活動の資金の取り組み。</p> <p>「音楽は皆の心を豊かにする。」「音楽は万国共通語だ。」と実感した。</p> <p>日本では生活保護で家庭も守られており、生活が苦しくても子どもが働かなくてもやっつけていけるシステムになっている。同じ年齢の子どもでも、全く違う教育環境であることを実感した。</p>
8月8日	日本に帰国 伊丹空港のトイレ	<p>最後に日本のトイレが一番美しく清潔感に満ちあふれており、改めて感動した。</p> <p>手洗い場と化粧室のスペースが分かれ、混雑時にスムーズに使用できる工夫を感じた。</p> <p>インドネシアに行き、他国を勉強することで、我が国日本の良さを改めて感じる心になれたことが嬉しい。</p> <p>児童に国際理解教育を伝えていく上で、もっとも大切なことを最後に体験できて良かった。</p>

2-3

学校名：神戸市立東灘小学校
氏名：三好 裕子

1 海外研修について

(9) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)

ゲシアン村でのホームビジット

裕福な生活をしている村ではなくて、一般の家庭を見ることができたことがよかった。

ランチも村ではご馳走なのかもしれないが、ごく普通の食事をする事ができた。

「お母さんの宝物はなんですか?」という質問に「息子です。」という返事がすぐあったところが温かく微笑ましかった。

ゲシアン村の小学校訪問

子どもたちはとても人懐っこく、笑顔で挨拶をしてくれた。言葉があまり通じなくても私たちの言うことを分かるようとする雰囲気があった。

6年生のクラスでは、特別に少しだけ時間をいただき、「鬼のパンツはいいパンツ」を歌い伝え、一緒に踊ってきた。日本の子どもたちと同様、のりがよく元気に歌っていた。音楽やダンスは、言葉が通じなくても一体感を味わえる武器だと思った。低学年のダンスの授業を見せてもらったが、廊下のような所で、とても狭いのだが、子供たちは一生懸命踊っていた。狭い場所でも気持ちがあれば素敵な授業ができるのだと思った。

HIMMATA(スラム街で活動している現地NGOプロジェクト現場)訪問

低い土地に掘っ立て小屋程度の家が並んでいた。

挨拶が苦手な私でも挨拶をすると、返事がすぐにある町。小さな駄菓子屋があったり、食べ物屋があったり。「写真をとってもいい?」と聞くと笑顔でポーズを決めている人たちがばかりだった。共同で立てたバスルームがあったり、広場にはごみにならなっていたり。あまり日本では見ることのできない環境と生活と習慣であった。学校では子どもたちは熱心に学習に取り組んでいた。「ほしいものは?」と聞くと迷わず「知識」という答えが返ってきて感動した。また、私たちとの交流のために流行の歌を歌ってくれたり、音楽を奏でてくれた。とてもしっかりした態度や歓迎を表してくれる態度に感動した。

先生方には教育の必要性やそれに対する熱い思いがあり、未来をみて努力されていたのが印象的だった。

(10) 収集した資料/教材について

- ・インドネシアの写真・動画
(ジルバブのファッション、食べ物、建物・道路の様子(バイク5人乗り 馬車 ベチャなど)、家の様子、小学校での子どもたちの様子)
- ・イスラム教の絵本、日本の漫画
- ・影絵、パティックのセンス、ジルバブ、ペチ(イスラム教の男性がかぶる帽子)、太鼓
- ・インドネシアの紙幣

(11) 授業/学校生活への活用について

- ・写真 インドネシアの紹介(家 道路 食べ物 学校 子どもたちなど)
- ・本、ジルバブ、帽子 イスラム教の紹介(ジャワ島では90%の人口を占める)
- ・パティック、影絵、ガムラン音楽 文化の紹介
- ・漫画 流行しているものの共通点の紹介

(12) 研修に関する全般的な所感/意見について

- ・同じものをみても、人によって感じ方や受けとめ方が違うことに、毎日の振り返りや話し合いで気がついた。したがって、自分が感じたことをメインに子どもたちに伝えていくのはまた違うと思った。

- ・インドネシアでは気がついたことや発見した事実のみを最初に子どもたちに伝えていこうと思う。写真や本を通して、子どもたちがインドネシアとの共通点や相違点を発見し、自分なりにインドネシアに対しての思いを抱いてほしいと思った。

6 来年度研修へ向けて ～さらに充実した研修のために～

(7) 事前研修

- ・インドネシアのことについて詳しく教えていただき、最初に抱いていた不安は自分の中で解決できた。
- ・新たな不安も抱いたが、仲間と共有することで薄れていった。
- ・土産や現地での仕事の役割分担が前日にできたのはよかった。
- ・土産は合計でいくら使って、一人当たりいくら負担するといったあたりまで話し合えるとなおよいと思う。

(8) 海外研修について

- ・海外研修は旅行と違って、他国の普段見ることのできない生活、文化や研究機関を見ることが出来る。
- ・意外性があつたり素敵なところを発見できたりして、一日のスケジュールがいっぱいになるのは分かるが、腹痛が絶えなかった私には、ちょっとハードであった。少なくとも日本ではないし、普段の生活とちがうし、体力勝負のところもあるので、17時か18時には夕食、19時には振り返り話し合いを始めることができれば、睡眠時間も確保され、健康管理も十分できると思う。
- ・話し合いは大事だが、できれば自分の意見を長時間にわたって言うのではなく、「気づいたこと・発見したこと」を最低限共有できればいいのではないかと思う。

(9) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・健康管理(いつも使っている薬は利かない場合があるので、腹痛の薬は色々持って行った方がよいと思う。)また、トイレで流せるティッシュも必須だった。
- ・プレゼントが多すぎると、持って帰ることになる。ホームビジット ホームステイは、個人的に用意し、小学校や中学校、ストリートチルドレンの施設には、あらかじめきっちり計算した上で、みんなで準備をしたほうがよいと思われる。また、大人数がいる施設に土産を渡す場合は、代表者にまとめて渡すほうが平等に配布されていいと思う。
- ・ホームステイやホームビジットでは、家のガラスなどに貼れる飾り(グッズ)に話題性があり、会話がつながり、大人も楽しんでいたので、よかったと思う。
- ・自分で気がついたこと発見したことを、いかに児童に伝えるか考えていると、ちょうどよい教材が市場やお店で見つかり、自然と授業案も浮かびました。インドネシアで自分が一番目に付いたことを大切にしてほしい。

7 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか? / その他所感
7月31日	JICAインドネシア事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に研修参加した方々の質問と答えを聞くことができてよかった。 ・エビの養殖はインドネシアの人たちがお金のため(生活のため)にマングローブをつぶしたことを知り、悲しく思った。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
7月31日	インドネシア大学 日本研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア大学で日本語を学んでいる生徒はみんな流暢な日本語を話していた。 ・将来の夢も明確で、日本の留学の予定が決まっている生徒もいた。 ・日本の漫画「ドラえもん」がきっかけで日本語を学んだ生徒もいた。 ・「学校に行きたくないなら行かなければいい」という言葉を聞いて、残念に思った。日本の場合行きたくないのではなくて、何らかの精神的な事情で行くことができない場合が多いからだ。行きたくないわけではない。教育者である以上、やはり教育を大切に思っていてほしいと思った。カウンセラーなら別だが。 日本の子どもたちには、「ドラえもん」がインドネシアの子どもたちに愛されていることを伝えたい。
8月1日	生物学研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・シーラカンスやラフレシアなど、有名な動植物の標本がある。新種が発見されるたびに、こちらのものが原点となり研究される。 クラスの子どもたちは生物が大好きなので、インドネシアの紹介で伝えたい。
	ストリートチルドレン 更正施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「いかに自立させるか」を目的に活動していた。生活習慣は、幼い時に教育する。大きくなったら、仕事をし、お金をもらうということを知る。紙すき、ものを作るなど、35歳までの自立を支援する。 インドネシア紹介で写真を見せたい。自立する大切さを感じてほしい。
	JICA関係者との 意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の教師海外研修でホームステイを実施するかしないかは、私たちにしかかかっているということを知り、驚いた。 ・みなさんと気軽に話ができよかった。
8月2日	インドネシア語教室	<ul style="list-style-type: none"> ・数字、挨拶、自己紹介をインドネシア語で言えるようになった。 ・クイズ形式にすると楽しく学ぶことができた。 英語活動で、世界の挨拶の言葉をカルタ形式にして遊びながら触れるようにする。
	ホームステイ	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスチャンの家でホームステイをさせてもらった。家にはマリア像やキリストの絵などがあった。 ・お手伝いさんを雇っていて、孫や小さい子どもの世話は、お手伝いさんの子どもたちも手伝っていた。 ・ホームステイの目的は、インドネシアを勉強している人たちを助けること。そして、「収入」だった。 世界の人と触れ合うチャンスを大切にしていた。そういう姿勢を子どもたちに伝えることができたらと思う。また、宗教を大切にしていた点も伝えたい。
8月3日	文化体験教室 「ガムラン音楽」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜が数字で表記されていて驚いた。 ・簡単そうに見える楽器は、演奏してみると細かいルールがあり、とても興味深かった。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月3日	市場見学・書店	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物をするのに、先にこちらから半額くらいの安い値段で交渉するのがコツであることを知った。 ・買い物は、会話を通して楽しむものだった。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場がない。 ・教室はたくさんあるが、中には簡易教室もあった。落ち着いて席についており、一斉授業をしていた。教室や体育をする場所は簡素だが、前に大統領の写真を飾ってある違いや、一斉授業でみんな席について学習している点を紹介し、どの世界でも勉強して学ぶことは大切であることを知らせる。
	ホームビジット	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭料理をいただいた。テンペ（大豆などをテンペ菌で発酵させる醗酵食品）は、一般的な家庭料理だと知った。なんとなく少しすっぱい感じがした。 ・井戸があり、台所とトイレは別にある。台所は外にあり、日本人である私は、個人的には衛生面が気になった。トイレや台所が離れにある不思議さ、そして、寝たりくつろいだりする部屋を紹介し、日本とちょっと違う点がありながらも、同じ点も多いことを感じさせたい。
	サイエンスカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは素敵なるろうそくを作り、喜んでいた。できれば、ゴミ袋をあらかじめ用意しておいて、ろうそく作りに使用した紙コップを捨てる位置を指摘しておけば、たとえ、そこに捨てないでポイ捨てになったとしても、よりよかったように思う。
8月5日	ワテス国立第1中学校 スポーツ青年局	体調不良のため欠席
8月6日	ポロブドゥール遺跡、 プランバナン遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョグジャカルタの世界遺産ポロブドゥールの歴史的背景をガイドさんに教えていただいた。 ・オランダの侵略による被害も歴史として淡々と説明されていたことに驚いた。 ・ガイドさんは、日本語を2年間独学で習得したらしい。日本語を必死で勉強し、仕事を得ている人がいることを伝える。大乘仏教の世界遺産として残っていることや、塔の中の仏像の説明をする。
8月7日	インドネシア事務所 報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで振り返り、意見をまとめることができ良かった。
	HIMMATAの 学校・寮	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を通して、一体感を得ることができた。 ・その学校の子どもたちは、知識が一番欲しいと言っていた。 ・「学びたい」という気持ちは、どこの国も共通しているものだと思った。どんな状況であれ、教育は必要なものだと思う。学校という集団生活を通して、知識・協力・忍耐・友情を得て、インドネシアの子どもたちもそして、日本にいる目の前の児童たちにもこれからの生活に未来に役立ててほしい。

2-4

学校名 : 兵庫県立芦屋国際中等教育学校
担当教科 : 英語
氏名 : 貞松 千佳子

1 海外研修について

(13) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)

ゲシアン村でのホームビジット

本当に快く受け入れてくれた。インドネシア語で必死に話そうとしている私の言いたいことを必死で分かろうとしてくれた。

ワテス国立第一中学校訪問

やはり中学校の教師なので、同年代の現地の子供たちの学校生活を見学し、少しではあったが会話ができただのが良かった。

HIMMATA(スラム街で活動している現地NGOプロジェクト現場)訪問

経済格差が非常に大きいということを本当に実感できた。どんな環境であれ、他国から来た私たちを心から歓迎してくれ、歌を歌ってくれたことに非常に感動した。

(14) 収集した資料/教材について

- ・写真(訪問した地域・地区の様子、小学校・中学校の様子、人々の生活(衣、食、住)、伝統文化)、動画(道路が渋滞している様子)
- ・中学校2年生の英語と数学の教科書、小・中学生が使っているノートと鉛筆
- ・パティックの服、ろうけつ染め用の容器
- ・小・中学生が休み時間等に食べているお菓子
- ・ジルバブ、イスラム教の教えの絵本、ハラルマークのついた食べ物

(15) 授業/学校生活への活用について

まずは、インドネシアの人々の暮らしを知り、身近に感じてほしい。上記の収集した資料、教材を使い、インドネシアの人々の生活、現地の小学校・中学校生活、イスラム教、伝統文化に触れさせたい。それらに触れる中で、日本との共通点・相違点をみつけさせたい。

次に、首都や都市、村、スラム地区の写真を使って、インドネシアでは経済格差が非常に大きいということを実感させたい。フォトランゲージの開発教育の手法を用い、それぞれの写真を見て思うことを書きださせ、発表させる。そして今後インドネシアがどのように発展してほしいか、自分ならどうしたいか自分なりに考え、班で話し合う。

また、貧しい環境で生活をしていても、他国から来た私たちを快く受け入れてくれ、力強く元気に明るく協力し合っていることを知り、貧しい=不幸せでは決してない、本当の幸せとは何か、改めて考えさせるとともに、今感じる自分の幸せに感謝する心を持たせる。

更に、貧しい地域の人々の絵本がほしいという願いに応えて、既製の絵本ではなく自分でアイデアを考え絵本を作らせてみたい。生徒達がインドネシアの子供たちとのつながりを感じられるような活動にしたい。

(16) 研修に関する全般的な所感/意見について

今回の研修では、自分一人の観光では決して訪れることのできない場所を視察できた。また、現地でお世話になった通訳の方々も本当に熱心に私たちの質問にも答えてくれ、私自身にとってこの研修は本当に貴重なものとなった。現地の人々と直接交流する中で、今後も世界に目を向け様々なことを学び続けたいと強く感じる事ができた。本当にありがとうございました。

8 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

(10) 事前研修

- ・日本文化紹介等の出し物の練習は派遣前研修(第2回事前研修)で良かった。
- ・持ち物の面では細かい質問が色々浮かび上がってきて、第2回事前研修ではもう荷物を持っていかないといけないので、少し悪戦苦闘しました。しかし、メーリングリストがあったので助かりました。

(11) 海外研修について

- ・観光では決して行けない所を訪問・視察できて、本当に貴重な体験ができ、勉強になった。現地では通訳もつけてもらい、現地の方との通訳だけでなく、私たちが休む暇もなく投げかける質問にもテキパキ答えてもらい、本当に勉強になった。
- ・ハードスケジュールと慣れない環境・食事から体調を壊してしまう人もたくさんで来たが、可能な限り教師海外研修は続けていっていただきたい。
- ・同行の二人が、「授業のことを考えて買い物を！」「授業のことを考えて写真を！」「ここで、何を感じて、何を子どもたちに伝えたいか！」「何を使って何を子どもたちに伝えたいか！」と常に言い続けてくれたので、しんどかったけれど、何のために来ているかを忘れることなく最後まで頑張れた。

(12) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・体調だけは気をつけて、元気にいろいろなことにチャレンジしてほしいと思う。
- ・一緒に行く先生方の専門性や個性を生かして、忘れられない貴重な研修をつくりあげてほしい。
- ・自分が感動したことは、子どもたちにも熱く語れると思う。
- ・失敗したり、授業の組み立てに悪戦苦闘したが、私は自分の授業を実践して良かったと思える。頑張ってください。

9 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
7月31日	JICAインドネシア事務所	インドネシア事務所は1969年にスタートし、世界のJICA事務所の中で一番古い。支援もハード面（技術移転）からソフト面（内面・考え方に関する教育、相手国を理解した上で情報を伝達する）に変わってきている。これからは日本のスタッフを日本に帰し、インドネシアのスタッフに任せていく時期であるということを知った。
	インドネシア大学 日本研究センター	高等教育を受けることができるほどの高収入家庭であり、なおかつ教養のある学生と交流でき、勉強になった。母語、英語に加え、日本語もうまく、研究意欲が高かった。一番、印象に残っているのは、大学の女性教授が言った以下の言葉である。「日本は男女平等と言っているけれど、結婚し仕事を持つ女性はすべての仕事を女性がしている。それは男女平等ではない。まだまだ結婚し子供を持つ女性が働きにくい社会だと思う。」日本をよく見ているなと思った。
8月1日	生物学研究センター	動植物の標本の多さには非常に驚いた。世界的レベルの価値があるのがよく分かった。このようなプロジェクトに日本が援助をし、また日本の大学と共同で研究しているということにも驚き、よい勉強になった。
	ストリートチルドレン 更正施設	子供の考えや行動を変える（路上に出てお金をもらっていただけだったが、お金を得るためには、何らかのことをして得ないといけないという考え）のは難しかったというのは非常に共感できた。子どもたちは尊敬できる人を求めて路上にでていく、だからまずは子どもたちにとって尊敬される存在にならないといけないと語る施設で働く人の熱い気持ちが伝わってきた。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月1日	JICA関係者との 意見交換会	インドネシアのトイレの話をしていろんな人の経験談を交えながらたくさんお話ししてくださったのは面白かった。トイレ事情も日本とインドネシアの文化の違いの大きな一つだと改めて感じた。また、インドネシアの教育は詰め込み式になってしまっているというのには驚いたと同時に、日本も同じ問題を抱えている面もあるなどと思った。
8月2日	インドネシア語教室	久しぶりに言語習得の苦しみを味わった。脳が思うように動かないという感覚を味わえてとても新鮮だった。もっとインドネシア語を学びたいという気持ちになった。
	ホームステイ	私のステイ先は上流階級の家であった。立派な家に住んでおり、ホームステイを生計手段のひとつにしており、1度に12人が宿泊できる部屋がある。私が宿泊した時もいろんな国からスタディツアーに来ている学生が宿泊していたが、こんなにもたくさんの学生がインドネシアに関心を持っているということに驚いた。ホストのお父さんの夢「インドネシアは安全ではないからインドネシアを好きでない人は他国にはたくさんいる。インドネシアを平和な国にして、世界中の人にインドネシアに来てほしい。」という言葉には心打たれた。
8月3日	文化体験教室 「ガムラン音楽」	ガムラン音楽を見て聞くだけでなく、実際に体験し、パートに分かれて合わせられたのは非常に良かった。もともと音楽は好きなのでしっかり楽しめた。時間が経つのが早かった。
	市場見学・書店	市場の狭さ、人の多さには驚いた。神戸三宮の高架下ぐらいの道幅を想像していたので、驚きだった。あれではスリも出るし、やりやすいだろうなどと思った。市場の2階は、野菜や果物を売っていたが、現地の市場だと思わせる感じで、想像どおりで見ることができて良かった。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	学校訪問が一番楽しみにしていたので、子どもたちの人なつこさ・笑顔を見ると、こちらも非常に楽しい気持ちになった。日本文化紹介の方法に反省点はあったものの、可能な限り私たちが打ち合わせ・練習をしていけて良かったと思う。子どもたちのはしゃぎようは、本当に小学校独特のものだなと、どの国も同じだなと改めて感じることができた。
	ホームビジット	短い時間でしたが、私にとっては本当に忘れられない、言葉以上に心で交流をはかることができたなど感じられるひと時だった。そう感じられたのも、相手（ホームビジットのお母さん）が快く私を受け入れてくれ、私の拙いインドネシア語を理解しよう、私が何を言いたいのか理解しようという一生懸命になってくれたからだ。嬉しかったし、なんとか相手に伝えたい、相手と会話したいという強い気持ちが生まれてきた。コミュニケーションには相手を分かるう、分かりたいという気持ちが大切なのだということを改めて実感できた。

学校名 : 尼崎市立成良中学校 担当教科 : 保健体育 氏名 : 竹岡 聡子		発見したこと・学んだこと それを何につなげるか? / その他所感
8月4日	JICAボランティアとの意見交換会	<p>学の大学院がこのような形でインドネシアのゲシアン 災教育を行っていることに感心させられた。子どもたちが楽しみながらも何か学びとっていってくれればと願う。今後もこのプログラムが続き、防災教育を行う中で村の人たちの絆がより深まり、また日本人たちとの交流が深まることを願います。</p> <p>協力隊員の方々の、思うようにはうまくいかないが、自分なりの目標を持って頑張っている姿に感動した。“国際協力”の難しさも感じつつ、“自分なりの協力”を模索して焦らず着実に取り組んでいる姿は素敵でした。 料理隊員が活動する現場(調理場)は想像以上に清潔ではないんだろうなと思ってしまった。</p>
8月5日	ワテス国立第1中学校	生徒たちはみんなにこやかに私たちを迎えてくれた。休み時間に何人かの男子生徒と話をしたが、テレビで日本のアニメを見ていたり、休み時間は友達としゃべって楽しんだり、女の子に興味をもっていたり、日本の中学生と全然かわらないなと思った。鈴木隊員の授業が見られなかったのが残念。
	スポーツ青年局	言葉での交流、音楽を通しての交流、そして共に体を動かしての交流もできて良かった。私たちに点を取られると悔しい顔を見せ、バレーボールに一生懸命取り組んでいるのだなというのがよく伝わってきた。協力隊員の苦勞を知っても何も支援することができず申し訳ない気持ちだったが、バレーボールに打ち込む彼女たちが、あのひと時だけでも他国の人と一緒に汗を流すことを楽しんでくれていたなら嬉しく思う。
8月6日	ポロブドゥール遺跡	面白く変わった通訳ではあったが、ガイドさんのおかげで、ポロブドゥールの歴史や意味がよく分かりました。日の出を見られなかったのは残念でしたが、早朝に行ったのは正解だったと思う。
8月7日	インドネシア事務所 報告会	テーマに沿って(インドネシアと日本の共通点と相違点、研修を通して気づいたこと・学んだこと、日本の子どもたちに伝えたいこと)7人で話し合い、意見を共有できたことは今後の授業実践の案を考えるのに役立った。また、所長が「日本の学校では、肌の色の違いでいじめがあったり、差別がまだまだある。それをぜひ改善して行ってほしい」とおっしゃったのが非常に心に響いた。芦屋国際中等という学校があることで、心の居場所を見つけられている子どもたちはたくさんいるけれど、どんな子でも地元の公立学校でも居場所が見つけられるように人権教育に力を入れていかなければならないなと感じた。
	HIMMATAの 学校・寮	住んでいる場所・家は立派とはいえないが、どんな環境で生活していようと他国から来た私たちを快く受け入れてくれ、笑顔で挨拶をしてくれ、心のこもった歌で私たちを歓迎してくれた。感動したと同時に、「貧しい=不幸せ」ではない、本当の幸せとは何だろう、と改めて考えさせられた。自分の夢をしっかりと持ち、自分の宝物は“知識”であると真剣な目で答えてくれた女の子の顔が焼きついている。インドネシアでは経済格差が非常に大きいですが、どんな環境で生活していても、力強く生きている姿を日本の私の生徒たちにしっかりと伝えたい。

1 海外研修について

- (17) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)
HIMMATA(スラム街で活動している現地NGOプロジェクト活動現場)訪問
いろんなことが凝縮されているように思えた。一番感動した。
スポーツ青年局(バレーボールチーム)訪問
自分と担当教科が同じで、色々なことがイメージしやすく、共感しやすかった。
ゲシアン村でのホームビジット
インドネシア語でのコミュニケーションが大変だったが、見る物、聞く物すべてが楽しい発見だった。
- (18) 収集した資料/教材について
- ・写真、動画
 - ・体育の教科書、はがき、雑誌
 - ・伝統的な物(衣服など)
- (19) 授業/学校生活への活用について
- ・道徳教育や総合的な学習での環境学習、保健体育教科の保健分野につながるような授業展開がしたい。
 - ・「生きること」「幸せ」とは何なのか。自分自身を見直し、周囲の人々に優しくなれるようにさせたい。
- 上記のことを、収集した資料や共通の情報を使って授業展開する。
- (20) 研修に関する全般的な所感/意見について
- 校種や教科の違う参加者が、長期の泊を共にするなかで学びを得るには、興味や関心・目的の相違から大変難しいことだと思っていた。しかし、違うからこそ深い学びがあり、多角的に物事を見ていこうとするようになれた。研修中あらゆるところで出てきた話で、インドネシア人は多民族で「他を受け入れる」から...という言葉があったが、私たちはこの研修で、互いを受け入れ支え合うことを自然と学んでいたように思う。それにより、見えなかった物が見え、物事がまっすぐではないが進んでいったのではないか。教育現場で、仲間と協力することの大切さや他を受け入れることの必要性を今まででも指導してきたが、これからは心から伝えることができると思う。
- たくさんの学びが得られたこの出会いに心から感謝しています。

10 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

- (13) 事前研修
- ・事前研修をあと1、2回増やしてほしかった。
 - ・第1回の研修の時期を早めてほしかった。
 - ・時期的に7月のはじめでも、期末処理で忙しい時期なので、各自で勉強するにしても時間がなかった。第1回で研修後、各自で勉強したことを第2回に持ち寄り、参加者同士で話をする機会があればイメージが広がったし、校種や教科が違っても互いを理解してから海外研修に臨めるので、より能率的で効果的な海外研修になったと思う。
 - ・語学研修の時間があったら良かった。
 - ・実際行った研修内容については、授業に役立てることができるので大変勉強になった。
- (14) 海外研修について
- ・日本で研修を受けているだけでは、インドネシアの概要から研修での研究内容など学んだこ

とや考えることがたくさんあり、なかなか整理できなかったが、現地で体験することでどんどん疑問や考えが膨らんでいき、振り返りを行うことで更に深まった。

- ・研修過程において具体化されてきた私たちのあらゆる要望をうまく取り上げ、反映して下さったことで、参加者の研修への意欲が高まり、内容も深められたと思うが、各自で振り返り時間がほしかった。
- ・JICA事業の視察が多かったが、大変貴重な体験ばかりで、日常の自分自身の生活や教育活動につながっていて、充実した内容であった。
- ・参加者の興味・関心が違うので、それぞれが研修に夢中になり、後の予定がおしてしまったことが多く、いろんなことに影響したと思う。もう少し時間の余裕があれば良かったと思う。
- ・校種や教科が違うメンバーで話し合うことが、今までにない発見につながり大変有意義なものになった。

(15) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・事前に国の概要から研究内容に関することを学習しておく
- ・何について知りたいのかできるだけ明確にしておく。
- ・語学を学んでおく。
- ・研修中は、毎日各自でまとめておく。
- ・映像を見たままにとる。(何が必要かは授業案をたてる段階に変更することがある)
- ・同行者のアドバイスは、聞き流さず小さなことでも質問して、実践していく。
- ・旅行者でなく、視察に来ていることを忘れない。
- ・訪問中は、日本人としてみられるので、自身の言動を注意する。

2-6

学校名 : 芦屋市立山手中学校
担当教科 : 英語
氏名 : 田尻 伸子

1 海外研修について

- (21) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)
- H I M M A T A (スラム街で活動している現地N G Oプロジェクト現場)訪問**
個人旅行では絶対足を踏み入れられない、または、一人で入っていても決して歓迎はしてもらえないであろう所での感動的出会い
- ゲシアン村訪問**
小学校での大歓迎ぶり、校舎、教室、授業風景、先生方との意見交流、ホームビジットの家庭とホームステイ家庭との比較が興味深かった。子供たちの目の輝きは忘れられない。地道な支援。
- ホームステイ**
一般家庭での一夜は貴重な体験、料理、教育、青年海外協力隊員が入っている中学校と入っていない学校との比較。イスラム教圏でのカトリック系私学への訪問。
- (22) 収集した資料/教材について
- ・人との出会い、つながり、名刺、アンケート
継続的に交流するためには、興味を持って窓口になってくれる人が欠かせない。
英文レターや、生徒作品を交換できるための「人」とのつながり
 - ・教科書(中2英語数学)、問題集(英語)、高校歴史教科書(日本占領時代の記述あり)
 - ・写真 学校:校舎、生徒、制服、掲示物、教室、授業風景、板書、生徒のノートなど
授業料納入書、購買部、校内の祈りの場(教室)、校内の祈り前の足洗い風景
家庭:家、台所、寝室、居間、トイレ兼水浴び場(風呂場)、料理風景、
冷蔵庫の中、ごみ箱、炊事場、プロパン、換気扇、台所調味料、台所用品など
その他:建物内の祈りの方角マーク(天井、コーランの入っている引き出し内)、日本製のトイレトーパーフォルダー、日本製のタオルかけ
市場、水田・稲刈りの風景、ジャカルタのビル街、ジョグジャカルタの町並み(ホテルの窓から)スーパーマーケットの店内(商品陳列の仕方、日本語付き商品、レジ風景)、高級ショッピングマーケット(ブランド店街)、バナナの花と実、パパイヤの木
 - ・その他 パティックで使うロウを垂らす道具、今と昔(戦前、戦後、現在)の同じ場所絵葉書、コーラン、パティック、影絵の人形、麻袋再利用のバック、石鱈とストローで作った飾り花、ハラルマークつき菓子包み、インドネシア語のまんが
- (23) 授業/学校生活への活用について
- ・写真を整理し、あくまでも「私が出会ったインドネシア」として紹介
 - ・「インドネシアに友だちを作ろう」というテーマに沿って、英文レターやビデオレターなどの作成、インドネシアで出会った学校や人たちに実際に送付
 - ・理想は年に数回でも、生徒間での美術作品などの送付交流
- (24) 研修に関する全般的な所感/意見について
- 多くの人との出会いが、これまでの自分の概念の浅はかさに気づかせてくれ、今後の教育の在り方を再構築する良き機会となった。
- ・「感謝」の一言である。
 - ・参加者に選出していただいたこと
 - ・このメンバーで行けたこと
 - ・多くの方々の支え、出会い、感動のあった研修だった。
 - ・体調管理の大切さ
 - ・自己管理不足の反省
 - ・時間的拘束の長さ、過密スケジュール(それだけ内容が盛りだくさんで充実していた。)

11 来年度研修へ向けて ～さらに充実した研修のために～

(16) 事前研修

- ・第1回事前研修については、意義があり、日程的にもちょうどよかった。
- ・旅行業者の資料と主催者側からの資料に重複があり、あとから整理するときに紛らわしい。
- ・第2回事前研修については意義あるものでしたが、研修としては17時には、全体会は終えるべきだと思う。

(17) 海外研修について

- ・「相手」がある研修であるのに、日本側の要求、個人的なお願いを多く取り入れていただき、インドネシア側との調整が大変だったと思う。
- ・同行者2人は、疲労や感情を表に出さず、冷静に全体がスムーズに気持ちよく実施されることに徹底されていました。
- ・個人旅行では決して足を踏み入れられない場所での人との出会いは、心から感動し、今まで「見ようとはしなかった」「避けてきた」物事に対して、正面から小さな一歩を踏み出そうという思いに、自分自身の気持ちに変化したことは、本人が一番びっくりしている。実体験というのは、生徒にも大人にも重要だと痛感した。
- ・参加者の皆さんとの交流は、さらにかげがえのないものとなった。

(18) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・個人としての目的を明確にすること
- ・集団行動であることの自覚
- ・体調管理と自分から休息を申し出る決断（自己の反省をこめて）
- ・「相手＝インドネシア側関係者」の存在のもとで実施できている感謝の気持ち
- ・こちら側の要求、価値観を押し付けず、いかに希望を「相手」に伝え理解していただく努力をする積極性（覚えてたのインドネシア語をどんどん使うこと）

12 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
7月31日	JICAインドネシア事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保がこんなにも必要なのかと実感 ・JICA事務所の設備の立派さにはまるで日本にいるような錯覚を覚えた。 ・インドネシア人職員の控えめかつ気配りの利いた対応に、インドネシアの人への関心が高まった。 ・上記のインドネシア人職員が私にとっての初「インドネシア人」の印象＝自分は今から出会う人の前では「日本人」代表。気を引き締めて行動しようと思う。
	インドネシア大学 日本研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会で働く条件を日本ももっと整えるべきだ。 ・産前産後、育児中の働き方については、子育てへの周囲の理解を求め、社会全体で支援する必要性がインドネシアの方が整っている。 (ただし大学職員の場合であるから、必ずしも一般的な女性に当てはまらないだろう。)

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月1日	生物学研究センター	体調不良のため欠席
	ストリートチルドレン 更正施設	
	JICA関係者との 意見交換会	・住んでいる土地を好きになること = 理解への第1歩 そこから今この土地で、隣にいる人は何が必要で、自分は 何ができるのかを考え、行動へとつなげられる。
8月2日	インドネシア語教室	・語学の授業は、その言葉で、少人数だと、生徒の立場から も改めて実感。 ・教師の笑顔で、生徒は安心して間違っても発言できる雰囲気 が作られる。
	ホームステイ	・母親が家事全般を引き受けているのは、日本と同じ。 ・おもてなしの気持ちが随所に感じられ、ありがたかった。 ・水浴びは、初めの数回は震えたが、慣れたら思い切ってや ってよかった。気持ちよかった。 ・台所の清潔さ、主婦としての誇り。 ・生ゴミ回収は希望すれば毎日でもしてくれる。
8月3日	文化体験教室 「バティック (ろうけつ染め)」	・「伝えよう」とする気持ちは生徒の「理解したい」という 気持ちにつながり、相互理解が可能となる。 ・インドネシアの太陽のもとでは、はっきりとした色の組み 合わせが美しい。伝統文化や伝統工芸は、その土地に合っ ているから生まれる芸術だと実感した。
	市場見学・書店	・市場は土地の生活を垣間見られる絶好の場 ・土地の生活を匂い、視覚、聴覚、味覚、触覚：5感を使っ て体験できる市場 ・日本の中学2年生英語の教科書に出ていた「アジアまんが サミット」の話題に納得 ・日本の漫画文化の進出パワーはうわさ通りすごい。 ・品そろえの多さは日本の5倍 その商品の山から、気に入 ったものを見つけ出す人々のパワーは日本の10倍
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	・準備したもの、したことも状況判断して、臨機応変に対応 すればよかった。 ・日本で自分が文房具をもっと大切に扱うべきだと反省 ・小学校の先生は日本もインドネシアも女性が多いのか。 ・新しいもの、未知なるものへの関心の高さ ・日本の学校のトイレも生徒が掃除はしているが、せめて年 に1度は消毒を兼ね業者清掃依頼をするなど、もっと衛生 的にすべきだと思う。
	ホームビジット	・客人を精一杯もてなしてくれた気持ちがうれしい。 ・どこの国でも中高生は同じだ。 ・ペットボトルの水を用意して持っていたけど、せっかくの おもてなしの料理や飲み物を前に、鞆からペットボトルを 取り出せなかった。 ・戦前の日本も闘鶏を楽しんでいた人が多かったらしい。 (アジアだ、つながっている、同じだ。)

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月4日	サイエンスカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様性の中の統一」をインドネシア人の誇りだと何度も聞いた。インドネシア語がほとんど話せない、私の指示も一生懸命聞き、行動してくれる子供たちにその姿の原点を見た気がする。 ・「支援」とは「無責任にはできない」から、必要性は感じていても避けてきた自分を恥ずかしく感じた。自分ができることを地道に努力している（力みなぎる行動力と溶け込もうとする謙虚さの抜群のバランスがすごい）日本人たちと出会って、自己を振り返る良ききっかけとなった。 ・村の大人も何らかの形で参加できたら、もっと「つながる」きっかけが増えるように思った。
	JICAボランティアとの意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・隊員の生活環境の話聞き、その大変さに驚いた。 ・健康が1番。ジョグジャカルタでは大病を治療できる、信頼のおける病院がないため、ジャカルタまで緊急入院しに行ったと聞くと、安心できる生活の確保は、隊員にも現地の人々にも最優先されることと改めて感じた。
8月5日	ワテス国立第1中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は育ち盛りだから、休憩時間のおやつ許可は健康上必要なかもしれない。日本も取り入れたらよいと思った。 ・伝統のバティックを伝えるということはとても良い。日本も「ゆかたデー」なんて作ってみたいらいいのでは。 ・日本の中学生もインドネシアの中学生も携帯電話に夢中
	スポーツ青年局	<ul style="list-style-type: none"> ・地震で崩壊した体育館の早期再建を心より願う。 ・隊員の日常生活はジャカルタよりはるかに厳しい。 ・現地のスタッフと懸命にコミュニケーションをとろうとしている隊員の姿
8月6日	ポロブドゥール遺跡、 プランバナナ遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・1995年に訪問した時は緑のヤシ林の中にあつた遺跡の情緒が薄れてしまった感じがした。「開発」はこれで成功しているのだろうか。 ・プランバナナは世界遺産といえども、地震の復興がまだまだ続く。
8月7日	インドネシア事務所 報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な経験が無事終えることができたのも、多くの方々のおかげだと感謝 ・表面に見えないところでの安全確保など、スタッフの影の努力に感謝
	HIMMATAの 学校・寮	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸せ」とは、自分に問い直すきっかけとなった。 ・「心」が通じ合えることの喜び ・日本の生徒に「大切なもの」の答えで「知識」と出てくるだろうか。日本の教育の在り方を再考 ・帰国後、必ずこのスラムの生徒たちにコンタクトをとれる生徒を育て、互いの刺激、支えになれたらいいなと思う。
	スカルノ・ハッタ国際 空港（ジャカルタ）	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの空港の免税店内ともわからない品そろえ豊富な商業施設と、つい先ほど訪問したスラム街とのギャップはどう考えたらいいのか、自分の中で整理つかず搭乗 ・日本人観光客の多さを実感。インドネシアの人たちに経済効果をもたらしているのか？それはインドネシアの人たちにとって果たして真の発展に結びついているのだろうか。
8月8日	成田空港、羽田空港、 伊丹空港	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアとさほど変わらない景色（同じアジア） ・消費者の安全確保が基本となる社会を大切にしたい。

2-7

学校名 : 柳学園中学・高等学校
担当教科 : 地歴科・中学社会
氏名 : 山中 信幸

1 海外研修について

- (25) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)
H I M M A T A (スラム街で活動している現地NGOプロジェクト現場訪問)
スラムにおけるNGOの活動を見ることができた。そこに学ぶ子どもたちの明るい笑顔に出会えた。
- ボロブドゥール遺跡訪問**
開発の問題点を直接目にすることができた。
- ワテス国立第1中学校**
インドネシアにおけるエリート養成教育の現状に、日本の学校における教師の教育活動に見られるものと同質の問題点を見いだすことができた。
- (26) 収集した資料/教材について
町や村の写真、絵はがき、コーラン、ハラルマークのついたチキンラーメン、様々な人とのネットワーク
- (27) 授業/学校生活への活用について
異文化理解・環境教育・平和教育・人権教育・各教科など、どの分野でも活用することは可能だと思うが、単に3F(ファッション、フード、フェスティバル)といわれるような文化紹介に終わらないように取り組みたい。
- (28) 研修に関する全般的な所感/意見について
JICA主催のプログラムなので、JICAが一番見て欲しいところに訪問することになるのは分かるが、私たちの日常生活と密接につながっている合板工場やエビやパームのプランテーションで働く人々にも出会う機会があれば、もっと違う学びがあったのではないかと。インドネシア大学日本研究センターや生物学研究センターの取り組みからも、いろんな学びはあるが、教材化するには情報が乏しすぎる。
多様な価値観を持つ人たちの集団をまとめることの難しさを感じた。しかし、最後には参加者全員に変化が生じていたことを実感した。

13 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

- (19) 事前研修
事前にもっと問題意識や価値観を共有する時間をとり、インドネシアを見る視点を明確にする必要があった。
事前学習の段階で、「自分にはまだまだ知らないことがたくさんある」、「自分は何らかのステレオタイプに縛られていた。」などに気づく機会を持つことができればよかったと思う。
授業作りのためのワークショップも事前にすればよかったのではないかと。
「開発」とは何かについて、じっくり考える時間がほしかった。
- (20) 海外研修について
日本に住む私たちの日常とインドネシアとのつながりを、目で見て確認できる場所へ行きかけた。例えば、アルミや合板の工場やパームのプランテーション、エビの養殖場など。
戦争体験者から当時のお話を聞くなど、日本とインドネシアとの歴史的なつながりも体験的に学びたかった。

農村を訪ねたとき、半日ぐらいかけて、村の人たちと一緒に参加型地域開発の手法であるPRA (Participatory Rural Appraisal) の手法を使った村落調査をしてみたいかがでしょう。

(2 1) 今後の本研修参加者へのアドバイス

まずは健康が第一。事前にしっかり体力をつけて、すべてのプログラムに参加できるようにしましょう。

毎日の振り返りの時間は、一番大切な時間だと思います。どんなに疲れていても、積極的に参加することが大事だと思う。自分たちが何を感じ、何を学んだかをじっくり振り返ることが、新しい学びを生み出すきっかけになると思う。

人の話を聞くこと。そして自分の意見をはっきり言うこと。そして何より大切なのは、互いの意見を尊重すること。

事前に、「インドネシアについて」「ODAについて」「日本とインドネシアとの関係について」などを調べておくこと。

いろんなことに疑問を持ち、好奇心を旺盛に。

精一杯楽しみましょう。

< 参考文献 >

- ・『エビと日本人』村井吉敬、岩波書店、1988年
- ・『ODA 援助の現実』鷲見一夫、岩波書店、1993年
- ・『日本は世界の敵になる ODAの犯罪』浅野健一、三一書房、1994年
- ・『日本人の暮らしのためだったODA』福家洋介・藤林泰編著、コモンズ、1999年
- ・『アジア政治を見る眼 開発独裁から市民社会へ』岩崎育夫、中央公論新社、2001年
- ・『概説インドネシア経済史』宮本謙介、有斐閣選書、2003年
- ・『インドネシアを知るための50章』村井吉敬・佐伯奈津子編著、明石書店、2004年
- ・『世界から貧しさをなくす30の方法』田中優・檉田秀樹・マエキタミヤコ編著、合同出版、2006年
- ・『インドネシア 多民族国家という宿命』水本達也、中央公論新社、2006年
- ・『エビと日本人 暮らしの中のグローバル化』村井吉敬、岩波書店、2007年

14 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
7月31日	インドネシア大学 日本研究センター	<p>日本は技能実習生としてインドネシアから多くの労働者を受け入れてきた。今また看護師・介護士になるためにインドネシアから200人ほどの人を受け入れた。</p> <p>しかしその研修生の中には、日本企業によって、劣悪な労働条件で働かされた人々も少なからず存在している。看護師・介護士になるためにやってきたインドネシアの人々にも、日本の労働者不足を一時的に補うために受け入れられたという見方もされている。そういった状況がある中で、インドネシアと日本企業とのよりよい関係づくりについて研究しようとするこの機関の存在意義は大きいと思った。</p>
8月1日	生物学研究センター	<p>熱帯雨林の保護と持続可能な開発は、地球温暖化防止の意味からも大変重要な視点だと思う。</p> <p>しかし今後、企業がこの研究機関と関係を持ち、企業の利益を生み出すものとして熱帯雨林が利用されはじめたときに、熱帯林の行方はどのようなのだろうか。</p>
	ストリートチルドレン 更正施設	<p>路上で生活するようになった理由が以下のとおりであることに驚いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちが路上で生活していたから ・暇つぶしが習慣化した ・ストリートチルドレングループのリーダーにあこがれて <p>このことはまさに、教育の問題であり、雇用の問題であり、社会構造の問題であるといえよう。</p>
8月2日	インドネシア語教室	<p>短時間ではあったが、インドネシア語だけで簡単な言葉のやりとりをしたことで、その後のホームステイに向けての心の準備ができ、緊張が和らいだ。</p>
	ホームステイ	<p>ホームステイを受け入れることを生計の手段にしている家庭であったので、ホームステイというより民宿に泊まっているという感じがした。</p> <p>その家の祖父は、日本が占領していた頃、中学3年生で青年団に所属していたらしい。「海ゆかば」を歌って聞かせてくれた。</p> <p>テレビではインドネシア独立記念番組が放映され、インドネシアのアイドルたちが独立記念日を祝っていた。</p> <p>その家の子どもは、日本のアニメ「ナルト」の絵を描いた帽子をかぶっている。彼の大好きなアニメなのだそう。</p> <p>ずっと話し相手をしてくれたその家の祖母は、「日本人もインドネシア人も同じアジアの人」だということで、親しみを感じていると言っていた。</p> <p>しかし、本当にこの国の人々の多くが親日的なのだろうかと疑問も感じた。</p>
8月3日	文化体験教室 「バティック (ろうけつ染め)」	<p>初めてのバティック制作体験。</p> <p>溶けたロウを使って布に絵を描いていった。その後、染色。余りうまく描けなかったが、静かな日だまりの中で、ゆったりとした時間を過ごすことができた。</p>

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと それを何につなげるか？ / その他所感
8月3日	市場見学・書店	市場は活気があり刺激的だった。時間に縛られず、ゆっくりいろんな所を見て歩きたいと思った。 あの活気が今の日本が忘れてしまったものの一つなのかもしれない。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	小学生たちは明るく迎えてくれた。 日本文化紹介は子どもたちを対象にするのではなく、教師を対象にして“ジャパンボックス”を使いながら、日本の問題点・インドネシアの問題点を共有する方がいいのではないか。 (テーマを環境とか格差とかに絞っても良いかもしれません。)
	ホームビジット	通訳の関係で、グループワークをするのは難しいかもしれないが... この村の人たちと話す時間がもっとあればと感じた。 ただ未熟なインドネシア語をつかって交流をするというだけでなく、PRAの手法を使って農村調査をしてみたいと思った。
	サイエンスカフェ	支援とは、相手の状況やニーズにあわせてゆっくりと浸透させていかなければならない。支援の現場に直接立った経験のない私には、頭でわかっている、行動として理解できていなかったということを痛切に感じた。
8月5日	ワテス国立第1中学校	青年海外協力隊員のお話は非常に興味深いものであった。まさに、インドネシアの教師が解決しなければならない問題は、日本の教師が解決しなければならないものと同質のものであった。今後、インドネシアの学校教育における問題をみつめなおすことが、私たち自身の目の前にある問題を解決するためのヒントになるであろうと考えられる。
	スポーツ青年局	私はこれまで、スポーツによる国際協力にどのような意味があるのだろうか、少々批判的に見ていた。しかし、子どもたちに生きる目標を与え、人と人とのつながりを広げる、すばらしい活動であることが分かった。
8月6日	ポロブドゥール遺跡、 プランバナン遺跡	歴史的建造物のすばらしさに触れるとともに、日本をはじめとする先進国の援助によってなされた観光開発の現実をかいま見ることができた。その公園の周辺に住む人々の状況について、もっと深く知りたくなった。 本当にすばらしい建築物だった。プランバナン遺跡は地震による被害が痛ましかったが、それでも儼かな気持ちになった。
8月7日	HIMMATAの 学校・寮	子どもたちの明るさと、それを支える人たちの情熱に心を打たれた。 また、歌手を夢見て、私たちに歌ってくれた子どもたちを守るためにも、日本社会も無関係ではない子どもたちの人権を脅かす様々な問題を解決しなければならないということを痛切に感じた。